

# 主な制作・広報ツール

環境リサイクルのチラシやポスター、オリジナルコースターなどを制作しました。地域のリサイクル意識の高揚と、県内の子どもたちへの啓蒙などの広報ツールとして活用しました。



2003年  
リサイクル啓蒙チラシ



2004年  
環境リサイクルチラシ2種  
(写真はそのうちの1種)

※旬の有機野菜7品前後を、  
お得な価格で販売しています。

「美味しい有機野菜を食卓に」という主旨に賛同していただき、「野菜クル」の輪を広げたいとの想いで、「食」や「環境」に興味のある方を「あだたら野菜クルサポーター」として募集しております。イベント案内や優待販売の他、岳温泉協賛店のサービス特典などもあります。

2004年  
あだたら野菜クル会員募集チラシ



2004年  
あだたら野菜クル会員証



バイオ有機ミネラルイオン肥料  
「きらきら有機リサイクル®」

牛糞・オガクズ・木炭などを70～80℃という高温でアミノ酸発酵し、十分に熟成させた堆肥です。「きらきら有機リサイクル®」は、植物に吸収されやすい結晶体が「キラキラ」と光って見えることから名前をつけました。



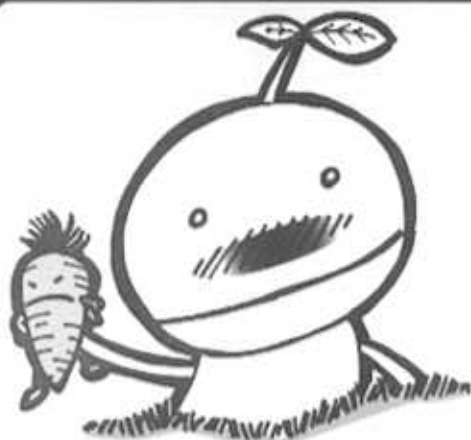
2004年  
野菜クルコースター



2002年  
オリジナルコースター



2003年  
リサイクルコースター



## リサイクル

岳温泉・安達太良山の環境保全のキャラクターで、食品残さをはじめ還元できるものをバクバク食べて土に還します。

## 任人

安達太良の森の管理人。リサイクルに反することをすると、土から出てきて注意をします。どこかで「任人(ニンジン)」が見ていますよ。



# 私たちの活動が、世界に広がることを願っています！

## 岳温泉循環型環境リサイクル協定 調印



平成16年12月6日

## 岳温泉循環型環境リサイクル協定調印式

写真上段左から

- 岳温泉観光協会 会長 鈴木安一
- 二本松市長 三保恵一
- 福島県農北農林事務所 長 前田悦久
- JAみちのく安達組合 長 安田潤男 (代理)

写真下段左から

- 岳温泉旅館協同組合 理事長 大内正孝
- JAみちのく安達二本松有機農業研究会 会長 大内信一
- 國分農場有限公司 代表取締役 國分俊作

(敬称略)



二本松市 市長  
三保恵一

近年、環境問題に対する関心や農作物に対する安全・安心の高まりなどにより、環境に配慮した農業の確立が求められています。

こうした中において、あだたら環境農業研究会は、平成14年4月の組織立ち上げ以来、生ごみの有機肥料化、安全な有機野菜の供給など、地域に根ざした食品環境リサイクルの輝かしい活動実績を残しておられますこと、地元市長として改めて感謝と敬意を表する次第であります。

二本松市といたしましては、農業・農村の健全で持続的な発展を図るため、バイオマス・ニッポン総合戦略による循環型農業・リサイクル事業を積極的に推進し、その確立に向けて更なる努力をいたしてまいりたいと考えておりますので、今後ともご協力のほど宜しくお願いたします。

結びに、あだたら環境農業研究会の今後益々のご発展と会員皆様のご活躍をご祈願申し上げご挨拶いたします。



岳温泉旅館協同組合 理事長  
大内正孝

数年来、地域づくり街づくりと言われ続け、今日でもこの言葉は、各地域において最重要課題となっております。

かつて岳温泉も、23年前にニコニコ共和国のイベントという街づくりで、一時の成功を経験致しました。しかしその後は、多くの課題に取り組みながらも、セツの出ない状況が続いております。

そんな中、平成10年から取り組んできた食品残さのリサイクル事業による有機野菜等、地元食材を取り入れた旅館料理が、少しずつ成果を上げ始めています。

おりしも岳温泉は今年から、健康をキーワードに、「日本一多様な散歩道を持つ観光地づくり」に取り組んでおります。

有機野菜などの時代に合った要素を積極的に取り入れながら、この素晴らしい環境、地の利を活かした街づくりに、地域一体となって邁進してゆきたいと考えております。



JAみちのく安達二本松  
有機農業研究会 会長  
大内信一

「農は国の基」という言葉が忘れられて久しいが、今、地産地消、地域循環、国土保全、健康問題等、食と農の環境を守るため、「日本農業を守らねば」の気運が高まっています。しかし一方、農の現場では多くの問題が山積しており、今はもう農業者のみの力では前進できないところまで来ています。

我々は30年前から消費者と共に歩んできました。本当の百姓は、安全を大事にしなければなりません。「消費者と土の健康を守り、ほんとうの空を守る」という輪の広がりの中で、行政も、地域も、観光も、他の産業も力を合わせて歩もうとしています。いや、歩まなければ日本の農業は基とは成り得ません。

基が弱まれば、家は、国は崩れます。皆の力で守りたいものです。



國分農場有限公司  
代表取締役  
國分俊作

國分農場(有)は「自然と先人の教訓に習い、次の生命に安全な食をつくる」ことを基本理念とした、循環型社会作りを目指しています。この岳温泉・有機農業研究会・農場の3者を中心に食品環境リサイクルに取り組む7年が過ぎ、皆様の努力に感謝いたします。「継続は力なり」です。約20年前の臭臭問題をきっかけに、本業を活かしながら地域に役立つことは何かと試行錯誤をしてきました。その思いの一つがこのリサイクルです。

また、岳温泉と食品環境リサイクルを学んだことにより、食品残さ(パン・お菓子・おから等)と酒酵母で発酵飼料を作り、環境に優しい「あだたら飼母牛」を育てることが出来ました。

今後も、三者協定によりそれぞれの役割を明確にし、力を出し合い、連携と乗車を重ね、知恵と実践の取り組みをしてまいります。そして、「農業・観光・食品加工等の地元産業おこし」になるよう、循環型社会作りを努力していきます。

## 岳温泉の泉質と成り立ち

岳温泉の湯元は安達太良連峰の鉄山頂下、標高1500mのところにあります。泉質は酸性泉（PH2.48）、自然湧出でしか得ることができない貴重な温泉です。酸性泉は全国的にも珍しい草津などと同じ泉質であり、顕著な医療効果から、江戸時代の諸国温泉効能番付表に岳温泉は前頭二枚目に「腐毒に吉」として上位ランクされています。

現在の岳温泉は1906年（明治39年）に原型が作られ、過去に山崩れ（1824）、戊辰戦争（1868）、そして大火（1903）と三度の大火害の後で温泉地ごと移転しており、元湯（堀日温泉と称した）から約8kmの引き湯をし、各旅館（現在は15軒）に分湯されています。

岳温泉は自然湧出の引き湯のため、管がまとまって温泉を大事にすることから成り立っている共同体的温泉地です。また、首都圏から最も近い位置にありながら貴重な自然環境の残る安達太良山の山腹に位置する好立地にあり、古くから下流への生活排水汚染には気を配ってきた経緯もあります。時代環境に合わせスキー場などの整備やニコニコ共和国独立宣言などのイベントも数多くなされてきました。

このような経緯から地域的取組みの21世紀型モデルとして食品残さの有機肥料化と有機農家との連携による循環型社会づくりが全国から脚光を浴びています。

さらに、「ウェルヘルスウォーキング健康宣言」により日本一多様な散歩道を持つ観光地としての魅力が加わり、温泉と健康と安心安全の有機野菜を地域ぐるみで使った温泉地としての道を大きく歩み始めました。



- 853年 岳温泉の最初の記録（「岳温泉地」）
- 1824年 岳山宮事
- 1868年 十文字岳温泉の大火全焼
- 1898年 箕輪原湧水組合との5年更新排水契約開始
- 1903年 深堀温泉（吉富）大火
- 1906年 現岳温泉復興
- 1929年 岳スキー場開場
- 1954年 第1号スキーリフト開業
- 1982年 ニコニコ共和国独立宣言
- 1998年 生ゴミ肥料化開始
- 2000年 エコスパジウム構想発表
- 2002年 二本松有機農業研究会との連携開始
- 2005年 ウェルヘルスウォーキング健康宣言

## JAみちのく安達二本松有機農業研究会

〈消費者と土の健康を守り、ほんとうの空を守る有機農業〉  
—資源循環型農業の取り組み—



昭和53年に、農協青年部・婦人部・生活改善グループ等の活動の中から、安全な食物に関心を持つ人たちがつどい、二本松農業協同組合有機農業研究会として発足しました。

土づくりを基本とし、安全・安心な農産物を消費者に提供するとの考え方に立ち、発足当初から有機物施用と無農薬無化学肥料栽培に取り組むとともに、(社)全国愛農会や日本有機農業研究会での学習の積み上げや、県内外消費者、生協等との意見交換などにより研鑽を重ね、有機農産物の製造販売組織として成長し続けてきました。

平成12年からは岳温泉旅館協同組合、畜産農家（堆肥製造）と連携し、食品リサイクルの一翼を担うことで、資源循環型農業を実現しています。

現在、12名の会員が、約13haの栽培ほ場を利用して、約40種類の有機野菜を栽培しています。「消費者と土の健康を守り、ほんとうの空を守る」を研究会のモットーに、毎月発行する「旬の有機野菜だより」とともに、旬の野菜を毎週10品目前後、消費者に届けています。



社団法人全国愛農会  
認定番号07-01

### 有機認証への取り組み

JAS法改正にともない「有機認証」を2001年5月に取得。名実ともに新たなスタートを切りました。岳温泉の環境リサイクル運動とも運動しながら、今後とも美味しい農産物の生産、地域との連携活動に力を合わせていきます。

## 國分農場有限公司



國分農場有限公司は「自然と先人の教えに習い、次の生命体に健康な食べ物を作る」ことを基本理念にし、地域社会と共存共栄する有機物循環型社会システム作りを目指しています。主な事業は、肉用肥育を基盤とし、日本古来からある発酵、熟成の技術を用いて、畜産廃棄物の堆肥化、食品廃棄物の飼料化を行っています。

生産品目：●あだたら高原産母牛850頭●セラミックボール「みね丸くん」  
●有機質肥料「グリーントップ」シリーズ●生命活性化液

堆肥化施設：●ロータリー式攪拌機1基●脱酵層60m×4m●熟成槽1棟  
●ローダー2台●フォークリフト3台●2tダンプ2台

### 食品残さによる堆肥製造システム

全長65m、深さ1.5mのレーン槽で、徹底分別して異物を取り除いた食品残さ（日量1t）に、おがくず、もみ殻を1〜2ヶ月踏み込んだ糞尿（同4t）を混入。独自開発した生命活性化液を加え、ブローしながら25日間一次脱酵させる。この間、自然発酵熱（70℃）で好気性微生物の働きが活性化し、残留する化学物質を分解・無害化する。その後、2〜3週間に一度切り返しながら、約3ヶ月間2次脱酵（熟成）させて完成。年に数回は、腐葉土と米ぬかなどを混ぜ、自家脱酵させた土菌菌も投入している。

- 沿革
- 昭和44年 創業 二本松村田にて、自給自足より農産物産出
- 昭和51年 糞尿処理に困り、現在地である大玉村玉井に移転
- 昭和57年 國分農場有限公司設立
- 昭和58年 毎坪250個になる、この頃、畜舎の原因不明の病気による死と、畜舎の悪臭に困り、ロータリー式攪拌機（深さ1m）・堆肥倉を建設（地域畜産総合対策事業・畜産環境対策事業）
- 昭和59年 6.5水害による増水で土手が決壊し、糞尿が川に流出し、行政指導を受ける。糞尿から肉牛飼育に移行始める
- 平成2年 はば肉牛に切り替える
- 平成10年 ロータリー式攪拌機（深さ1.5m）・ベルト製造機導入  
「畜産環境整備リース事業・特別対策」岳温泉、フェリスパークあだたらより、生ゴミ受け入れ開始
- 平成11年 (株)福島製作所と地産づくりで提携  
「コクブ式コンポストシステム」開発（特許取得）
- 平成12年 深堀川飲料リサイクル推進部より生ゴミ受け入れ開始
- 平成14年 岳温泉旅館協同組合・二本松有機農業研究会・浅沼と共同で「あだたら循環型農業研究会」を設立
- 平成15年 農業法人として認定農業者を取得

# 堆肥化できるもの／できないもの ◎人が食べられるものはほとんど堆肥化できます。

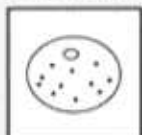
(注意) ●魚の骨、卵や海老の殻、柑橘類の皮(ワックスがけされたもの)、タマネギの表皮は分解しにくく、時間がかかります。

●腐っている食品、魚の内臓、イカの内臓、ニンニク、トウガラシなどは大量にいれると、分解能力がおちたり悪臭の原因になります。

## 堆肥化できるもの



野菜類



果物



穀類・麺類



肉



魚



魚の骨



茶かす



卵の殻

その他、人間が食べられるもの。  
水気を切ってお入れください。

## 堆肥化できないもの



貝殻類



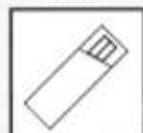
紙類



鶏・牛・豚の骨  
蟹の殻



樹脂類 ゴム類  
ビニール



箸など木片



金属類 ガラス類  
陶器



柿・葉の皮  
柿・梅干の種



油・牛乳  
酒・味噌汁など液体

その他一般的に人が食べられないもの

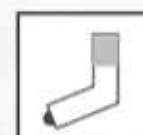
微生物が死ぬ  
原因となります。



薬品・洗剤



塩



煙草・灰



## JR／二本松駅まで

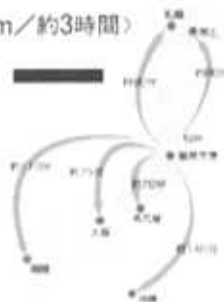
- 東京から東北新幹線・郡山駅乗換え〈1時間45分〉
- 仙台から東北新幹線・福島駅乗換え〈55分〉
- 山形から山形新幹線・福島駅乗換え〈1時間30分〉
- ※二本松駅から10km・バスで25分・タクシーで15分

## お車で

- 浦和I.Cから東北自動車道・二本松I.C経由 ……〈243km／約3時間〉
- 仙台宮城I.Cから東北自動車道・二本松I.C経由 ……〈99km／約1時間〉
- 三郷I.Cから常磐自動車道・磐越自動車道・郡山JCT経由 ……〈263km／約3時間30分〉
- 新潟から磐越自動車道・郡山JCT経由 ……〈157km／約3時間〉

## 飛行機で

- 札幌・福島空港(約80分)
- 名古屋・福島空港(約70分)
- 大阪・福島空港(約75分)
- 福岡・福島空港(約110分)
- 沖縄・福島空港(約145分)
- ※福島空港から48km／1時間



あだたら岳  
だけ  
**岳温泉 あだたら環境農業研究会**

〒964-0074 福島県二本松市岳温泉1-16 あだたら環境農業研究会事務局(岳温泉観光協会内)

TEL.0243(24)2310 FAX.0243(24)2911

<http://www.recycle.net>